
東方花妖怪

八雲糖類おう@若干鬱気味

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東方花妖怪

【Nコード】

N6772Y

【作者名】

八雲糖類おう@若干鬱気味

【あらすじ】

風見幽香を小さくした感じの男の娘が幻想入り！？とりあえず夢幻館メンバーあたりと絡ませる予定です。この作品は作者のもうかたつぽの作品が詰まったとき、やる気でないときに更新しますのであまりマメに更新できません。ゆっくり気長に生暖かい目で見守ってくださいね（断る

いちわめ ちびゆうかりん？（前書き）

はじめまして、もしくはこんにちはは糖類おうと申すものです。
特にありませんが見てくださいね。文才カスですけど

いちわめ　ちびゆうかりん？

ここはとある町のアパートの一室。その部屋のベットには10人中15人が振り返るほど可憐で幼さが残る顔の人が眠っていた。時刻は6時代で空は澄んで、鳥がTNTNと鳴く声が聞こえる。

ピピピピッーピピピピッー！

「ん・・・ふあゝ。よく寝たゝ」

目覚まし時計の鳴る音で目を覚ます。体を起こし、けのびをしてからベットから出る。

「今日から新しい学校ねえ・・・変なのがないと良いのだけど」
寝室から洗面所に行き、顔を洗い、自慢の緑色のショートヘアを梳かす。それが終わると今度は台所に行き簡単に朝食を作る。作るといつてもトーストだけであるが。差し詰め料理は出来ないのだから。

「うるさいわね。余計なお節介よ」

・・・と言ってる内にトースターから怪しい煙が出てきた。

「えっ！？ちよ・・・なにこれ！？ゲホッゲホ」

どうやらトーストも作れなかった様だ。白い食パンがあっという間にダークマターと化してしまった。

「まったく。このトースター駄目ね。新しいの買ってこないと」
自分の失敗を完全にトースターに被せ、ダークマターをゴミ箱に捨てる。そんな常人じゃありえない朝食作りをしたせいで登校時間になつてしまい、急いで制服を着る。

「今回の学校のスカート丈短いわね。どんな性に飢えたやつが作ったのかしら」

制服に対し毒を吐きつつも着々と準備を済ませる。

「これで・・・よしと。それじゃ、いってきます」

誰も声を返すことはないものの挨拶をしてから学校に向かう。

>??? (主人公) 視線<

「しつれーしまーす。山田先生はいらっしゃいますでしょうか？」

とは言ったものの教員はまだ数名しかおらず、私の学年を考えるとどれが山田かわかってしまつが一応聞いておく。

「おお、ここだ。って君は・・・」

声が出た方向を見てみると絶対に一生童貞確定のキモデブのおっさんがいた。やだあれ近づくと穢れそう。

「本日付でこの学校に転校することになってた者ですが・・・受付の方に聞いたら担任になる先生の山田先生の所へ行けと言われたので」

「えっとすまないがこっちがもらった資料では男って書いてあるんだが・・・多分記入ミスだろう。後で直しておこう」

まあ女顔っていうのは否定しないわ。けど資料に書いてあるものって私直筆じゃない。なんでそれが記入ミスなのよ。なんかぶん殴りたくなってきたわ。

「いえ、それは結構ですわ。私、男ですもの」

転校早々問題起こすのはいろいろとまずいから必死に堪え、笑顔でそう伝えてやったわ。

「」「」「マジで!?!」「」「」

あろうことが教員全員がこっちを見てきた。別に私は視姦なんて興味ないからうれしくもなんともないんだけど・・・

「マジよ、悪かったわね女顔で」

「・・・すまない。そっそれじゃ時間だな。クラスへ行くぞ」

逃げたなこいつ。

「それじゃ、俺が入って来いって言ったら黒板に名前書いて自己紹介しろよ〜」

そういうとガラガラツとドアを開け入って行った。どうやらHRをやっているようね。なんか生徒の声で転校生がどうのこうのって聞こえるけどどっからそんな情報が流れるのかしら。

「おい入ってこーい」

キモデブが呼んできたので教室に入る。それまでがやがや五月蠅かったのが嘘みたいにシンと静まり返った。逆にこういうのやられるとやりにくいんだけど……

とりあえず黒板に名前を書く。風巳かぜみ 幽花かすかと。

「今日からこのクラスに入ることになった、風巳幽花よ。あんまり馴れ馴れしくするとぶっ潰すからよろしく」

「ツンデレロリッ娘ゆうかりんひゃっほおおおおおおおー!」

「すっげええええええ！幻想郷からちっちゃい幽香様が来たアアアアアア！」

……なにこれこわい。

「あんたら私の自己紹介聞いてないの？私の名前はか・す・か！K A・S U・K Aよ！」

「ゆづかりん萌え〜」

「ゆづかりんかわいいよおおおおおおおおおおおおおおお！
だめだこいつら。」

そんなこんながあつてもう放課後、下校中よ。しょうもない変態共には制裁をくわえといた。そのときも「ああ！幽香様もっといじめてください！」「なんていつてきたからあいつらはもう救いようがな

いと思う。

「あっそういえばトースター買わないと・・・」

朝、故障（してない正常な）したトースターはとりあえずペチャンコにしておいた。

とりあえず値が張っててもいい物を買わないとね。

って、あれ？いきなり視界が霞んで・・・

気づけば森の中だった。

「・・・・・・・・・・」

なんとなく言ってみたもののただその言葉は木々に掻き消された。

このまま誰もいない様なトコにいてもしょうがないので近くの木の枝を折り、それを棒倒し（一人で）をして倒れた方向に歩いて行った。

「いつまで歩けばこの森をでれるのよ……………」

途方に暮れた。もう無理限界。寝よ……………

ガサガサッ

「何っ!？」

音のした方向を見るとカールのかかった金髪で赤黒いワンピース、帽子をかぶった少女、両鼻から大量の血を流して、いや噴出して危ない目をしながらハアハア言ってこちらを見てる少女がいた。……………なにこれこわい。このセリフ何回目かしら？

いちわめ ちびゆうかりん？（後書き）

感想・クレーム・誤字脱字・適当に思いついた事、どんなことでも構いません！何か有りましたらお気軽に感想か活動報告のコメント欄に書き込みください！出来るだけはやくレス返したいしますよ！

では次回で！ばいばい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6772y/>

東方花妖怪

2011年11月20日18時27分発行